

煌めく

オンリーワン・ナンバーワン

企業

21世紀を拓くエクセレントカンパニー





高齢化社会の未来を拓く医療現場の イノベーションに力を尽くす

熱意と使命感溢れる 医薬品開発のスペシャリスト



「医療費を削減するためには、病気の
予防や早期発見・治療とともに、誤飲
事故を始めとした確実に防止できる事
故には抜本的対策を実施し、ムダな受
診、治療を抑制することが大切です」

株式会社モリモト医薬

代表取締役

盛本修司

Only one and number one enterprise

Business leader

「貧血で内視鏡検査を受けたところ、十二指腸に薬の包装シートが刺さっていた」、「包装シートを朝昼晩に分けて切っておいたら、小さいのでそのまま包装シートごと飲んで包装シートが喉に刺さった」など、薬の錠剤を包装シートごと飲み込んでしまう事故が後を絶たない。

医療業界では誤飲事故の危険を知らせる啓発活動に努めているが、包装材料そのものの見直しには消極的だ。

硬い包装シートを飲み込んだことで、大量に出血したり切開手術をするなど重症例も依然として毎年数例報告されている。認知症患者も増える中、誤飲防止のためには現状の包装では解決されない。こうした中、武田薬品工業で70を超えるトップクラスの特許出願実績を持つ株式会社モリモト医薬の盛本修司社長は、「より多くの人の役に立ちたい」と平成17年に会社を立ち上げて世界基準の研究開発に邁進し、快適で安全な服薬を実現する製品を生みだしている。

軟質包材を利用した次世代の錠剤包装など、患者のQOL（生活の質）が向上する製品を開発し、各地での学会・展示会・セミナーで講演・紹介するなど八面六臂の活躍を続けている盛本社長に、業界のみならず各方面からそのエネルギーギッシュな活動に熱い視線が注がれている。

服薬から服「楽」を実現する画期的な「服薬補助ゼリー」
オンリーワンゼリーで、患者だけでなく医療従事者にとっても安全・安心を実現



「日本は4人に1人が65歳以上という超高齢化社会であり、世界一の高齢者先進国です。ところが高齢者施設を訪問した際、お粥の上に砕かれた薬がふりかけのようにのっけてとてもシヨックを受けました。まるでエサの様な服薬の仕方です、どんな人に対しても薬は薬としてきちんと美味しく



画期的な服薬補助ゼリー「のめるモン」

飲み込める方法はないだろうかと考えさせられました」と盛本社長は服薬ゼリー開発のきっかけを語る。

錠剤を粉砕することの問題点は、健康被害を引き起こす危険性があることだ。容易に吸湿したり、他の薬剤との配合変化や、粉砕する人の吸引など新たな薬害を生みだしかねない。製薬会社も錠剤を潰しての服用や、他の成分の混合による保証はしていない。また、要介護者にとっては食事の時に変なものを食べさせられるといった負の記憶が積み重ねられ、食事拒否や服薬拒否に繋がりが結果的に身体を蝕んでしまうことになる。

こうした現実を踏まえ、盛本社長は長年の医薬品製造技術を応用して服薬補助ゼリー「のめるモン」「eジュレ」を開発した。

「どんなに優れた薬でも、飲まない限り効果を発揮することはありません。私たちは服薬を容易に、薬に行っていたために嚥下に最適な服薬補助ゼリーを

開発しました。当社のゼリーは従来の服薬ゼリーと全く異なり、水の分離が無く錠剤に絡みつく物のオンリーワンゼリー（特許出願中）です。まるでデザートのようにゼリーを食べる様な感覚で薬を飲んでいただくことで、食事も薬も楽しんでいただきたいのです」と熱く語る。

服薬補助ゼリーの効用は、患者が薬を服用しやすくなるだけでなく介護者にとっても大きなメリットがある。本来の業務とは無関係の薬剤を粉碎するといった手間が省け、従来のとろみ剤の品質を向上し調整ばらつきなどの問題を解決することで、業務の質の向上や合理的な改善が見込めるからだ。「のめるモン」は平成26年のグッドデザイン賞を獲得するなど、斬新な次世代の服薬補助製品として注目を集めている。

10分以内の投薬が必要な胃ろう患者を助きたい 医療現場での経管投与の問題をすべて解決する革新的な「クイックバッグ」



食事を摂ることができず、栄養や薬剤を鼻から通したり直接管を通して胃に入れて胃ろう患者、経管投与患者は全国で30万人を超えるといわれる。

錠剤を潰したり、カプセル剤の中身を取り出したりなど看護師の負担は大きいですが、調剤指針には55℃の温湯で薬剤を溶かし、「10分以内」に投薬することとされている。

ところが多くの医療現場ではこの指針が守られておらず、2時間以上調整容器を放置している所も多い。場合によっては夜に準備した薬剤を朝に投与するといったリスクの高い現場も存在している。

「こうした医療現場では薬剤の効果を無くすばかりでなく、変性物による副作用が心配です。本来



使い捨て容器にも関わらず、再使用を行うことで容器が雑菌で黒ずんでいた例もあります。それだけでなく、在宅の現場では無洗浄で連続使用していた例もありました」と盛本代表は憤りを隠さない。モリモト医薬では長年の研究開発の末、これらの諸問題を抜本的に解決する使い捨て注入器「クイックバッグ」を平成26年4月から販売している。すでに導入した医療機関からは、作業性の向上と様々なリスクが回避でき、従来使用できなかった薬剤も使用できると好評価を得ている。使い捨てということでコスト面が気になるところだが、深刻な看護師不足が慢性化している状況で、購入費用を差し引いても手間暇を考慮すればはるかに経済的だ。

盛本社長は製剤研究者の目線から、医薬品の適正投薬で正確な薬効発現を担保する「クイックバッグ」を日本中に広めることに心血を注ぐ。患者のみならず患者の家族や医療従事者など全ての人にとって、より安心、安全な高品質な医療の提供を目指して、各種のセミナー、シンポジウム、展示会で意欲的に講演、説明会を実施するなど日夜奮闘を続けている。

錠剤の新しい包装形態「ESSOP」を考案 誤飲事故を防ぎ、医療費を削減するプロジェクトを積極的に展開



現在の医薬品包装の主流となっているPTP包装は「アルミ製＋硬質樹脂」で角が鋭利なため、高齢者や小さな子どもなどが誤飲による消化器損傷などの事故が後を絶たない。さらに認知症患者も増大しており、誤飲による消化器損傷などの事故数は年間数千人に達すると見られている。

多発する誤飲事故に対応して、薬を簡単に取り出すことができ、誤って包装ごと飲み込んでも人体を傷つけない新しい包装のスタイルとして盛本社長は「ESSOP」を考案した。



誤飲事故防止に役立つ「ESOP」

「ESOP」とは「Easy Seal Open Package」の略称で、ポリエチレンを主体とするフィルム袋に錠剤を充填し、1回の服用量ごとに包装している。大人は片手でも簡単に中身を取り出せるが、子どもには開封しにくい構造にしており、いわゆるチャイルドレジスタントにも対応している。コンパクトに携帯できるのも利点で、緊急を要する場合などにも対応できる。さらに表示部が大きくそこに品名・有効期限・バーコード表示・点字なども可能である。残薬が年間500億円といわれているが、この包装により大きく削減が期待できる。

「今後さらに高齢化社会が進行していきます。医療費はますます増大が予測されますが、国民の医療費負担の増加や給付の引き下げ対策だけでは限度があります。医療費を削減するためには、病気の予防や早期発見・治療とともに、誤飲事故を始めとした確実に防止できる事故には抜本的対策を実施し、ムダな受診、治療を抑制することが大切です。さらに残薬の対策も含めて薬の誤飲事故を防止するプロジェクトを進め



ることで、医療費の削減に繋がればと願っています」と語る盛本社長。

ESOPは平成26年3月に研究会で初めて発表され製薬業界で注目されている。特に医薬品包装の研究会組織である「創包工学研究会」により平成27年4月にESOPが厚労省に紹介されたことは大きなニュースだ。医薬品包装材の市場規模は国内で約100億円、海外は1000億円以上と大きい。盛本社長は「利益を協力先と分け合うことで普及促進を図りたい」と意気込む。

今や大きな社会問題化している誤飲事故は長年の懸案だったが、その根絶に向けて旗頭役を担う盛本社長の肩にかかる期待は大きい。



武田薬品時代の在籍20年で70件以上の特許出願実績 「安心、安全で飲みやすい医薬品をすべての国民に」

盛本社長は昭和57年に京都大学工学部化学工学科を卒業し、武田薬品工業製剤研究所に入社。新剤形技術グループ主席研究員や中国工場長などを歴任し、在籍20年間で70件以上の特許出願実績を持つ。武田薬品を円満退職した後、自分の発明した技術で広く世界に貢献したいとの思いから独立して立ちあげたモリモト医薬は、平成27年5月に設立10周年を迎えた。斬新かつ独創的な商品を次々と生み出す盛本社長のその卓越した発想力の原点は幼少時代にあるようだ。

「幼い頃はエジソンや野口英世などの偉人伝をよく読んでいました。発明を通じて世界に大きく貢献した人物の生きざまを見て、自分もこうなればと今に繋がる部分がありますね。スポーツも勉強も得意でしたが、反面自己中心的な部分もあるわんぱく少年だったようです」と幼少時を懐かしむ盛本社長だ。



長じて自己改革の必要性を認識し、たゆまぬ努力を積み重ねてきた盛本社長は、自らの仕事に生きがいをもち、必ずやり遂げるといふ強烈な意志を漲らせる。

「運命を変える多くの人との出会いがありました。武田薬品時代は欧州での学会ツアーに参加することができました。普通は年配者が多いのですが、当時私の勤務先の所長が30歳そこそこだった若輩の私にチャンスを与えてくれたのです。そのツアーで生涯の目標となる方や、一生の友人と出会いました。この頃私は製薬業界や世間に影響を及ぼすような仕事をしたいと考えていましたが、私にチャンスを与えてくれたこうした先輩方がいたからこそ、今の自分、ひいてはモリモト医薬があると感謝しています」と嘯みしめるように語る。

「安心、安全で飲みやすい医薬品をすべての国民に」との熱い想いを胸に、常に次代にチャレンジする盛本社長の「ネクストプロジェクト」は何だろうか。

「薬はゼリーで飲む」新しい服薬スタイルを世界中に！ とことん革新的な挑戦を続けるオンリーワン企業



数々の独創的なアイデア、考案をパテント化し、日本初の創剤ベンチャー企業として世界標準となり得る製品を開発してきた盛本社長は明日を見据えて今後の夢をこう語る。

「これまで新しい薬の飲み方、摂り方を創出するプロジェクトを進めてきました。薬を必要とする人たちが服薬するたびに感じている不快感・困難性は、健康な方にはなかなか理解できないものです。『薬はゼリーでおいしく手軽に飲む』という服薬スタイルが、2020東京五輪開催の頃には新しいスタンダードになることを目指して頑張ります」



革新的な挑戦を続けるモリモト医薬

また、盛本社長は豊富な海外経験（中国、米国居住）と海外学会での発表や展示会参加などで築き上げた人脈から、開発製品は日本だけでなく世界共通の問題を解決できる商材として高く評価されている。すでに問い合わせや引き合いが多く寄せられ、今年度は海外の企業との提携準備を進めている。

P T P 誤飲事故に対して、業界関係者はその実態を知りながら解決には誰もが及び腰を続けてきた。単に現状の方式以外の具体案が皆無であったことが原因だが、超高齢化社会を目前に控えた今、一人の研究者の熱意と使命感がこれまでの常識を覆そうとしている。

「食と薬は、人間が生きる事の根本に関わる問題です。これからも患者さんはもちろん、医療従事者、薬品会社の経営者にとって、安全性、利便性の高い商品開発を進めることで、社会貢献できるよう全力投球していきます」と熱く語る盛本社長は、探究心旺盛な少年のように目を輝かせる。



President Profile

盛本 修司（もりもと・しゅうじ）

昭和 57 年 京都大学工学部化学工学科卒業、武田薬品工業株式会社製剤研究所入社。製剤研究所新剤形技術グループ首席研究員、天津武田薬品有限公司 董事 工場長などを歴任。平成 14 年株式会社カワタ入社。川田（天津）国際貿易有限公司総経理などを経て同 17 年盛本（天津）国際貿易有限公司、株式会社モリモト医薬設立。同 20 年株式会社エルシー医薬、株式会社 CMC 医薬設立。同 21 年 Morimoto Research Inc. co. Ltd 設立。同 23 年株式会社 N P 医薬設立。

（所属・活動）

I S P E、P D A、日本薬剤学会、粉体工学会、製剤機械技術研究会（法人）

昭和 57 年から平成 3 年に武田薬品製剤研究所において注射剤の工業化に従事後、米国に半年ビジネス語学留学、同 4 年から固形剤、同 9 年から新剤形研究に従事、同 12 年首席研究員、同 15 年から 20 年まで中国駐在。

平成 19 年に M オーガー充填機が経産省の「新連携」事業に認定。同 20 年本格的に嚙下困難者にも服用しやすいゼリーキット新剤形 G T 剤の開発を開始。同 23 年 G T 剤を学会発表。

同 26 年服薬補助ゼリーキット、経管投与注入器発売。国内外で発表。主な開発製品：抗がん剤「リュプロンデポ」、胃潰瘍薬「タケブロン O D 錠」



Corporate Information

株式会社モリモト医薬



所在地

〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島5丁目8-28

TEL 06-6476-5572 FAX 06-6476-5573

 <http://www.morimoto-iyaku.jp/>

E-mail: morimoto@m-ph.co.jp

1. 人材については常に募集しており、このような当社にご興味ある方、ぜひ応募ください。
2. ESOP 研究会や誤飲防止協会（仮称）の会員を募集中であり、詳しくは esop@npph.co.jp までご連絡ください。

設立

平成 17 年 5 月 6 日

資本金

5000 万円

事業内容

粉末充填機 ゼリー製剤 服薬用補助剤等の開発・受託研究、製造・販売、新剤形医薬品の開発・ライセンス、医薬総合コンサルティング
・経産省補助金取得、大阪市トップランナー認定、大阪府経営革新企業認定、大阪府育成受託事業実施

賞

- ・平成 26 年「服薬補助ゼリーキット」がキッズデザイン賞、グッドデザイン賞受賞
- ・平成 27 年「クイックバッグ」が日刊工業新聞新製品奨励賞受賞
「新錠剤包装 E S O P 事業」が夢の街創造委員会シニアビジネスコンテスト最優秀賞受賞



9784888544917

ISBN978-4-88854-491-7

C0034 ¥1500E



1920034015001

定価 (本体 1,500 円 + 税)

発行 株式会社 ぎょうけい新聞社

発売 図書出版浪速社

企画 産経新聞生活情報センター

煌めく オンリーワン・ナンバーワン企業

- | | |
|---------------------------------|-----------------|
| 株式会社アンベエスエムティ (横浜市緑区) | 代表取締役社長 安部 可伸 |
| 宇仁繊維株式会社 (大阪市中央区) | 代表取締役社長 宇仁 龍一 |
| 株式会社エンタープライズサービス (横浜市港南区) | 代表取締役社長 藤原 久子 |
| 岡安ゴム株式会社 (大阪府東大阪市) | 代表取締役社長 岡 浩史 |
| 株式会社川商 (大阪市中央区) | 取締役会長 川畑 俊彦 |
| 株式会社桔梗屋 (山梨県笛吹市) | 代表取締役社長 中丸 輝江 |
| 株式会社木幡計器製作所 (大阪市大正区) | 代表取締役社長 木幡 巖 |
| 株式会社 3 R (埼玉県久喜市) | 代表取締役社長 山口 德行 |
| 株式会社長崎堂 (大阪市中央区) | 代表取締役社長 荒木 貴史 |
| 株式会社永島製作所 (石川県羽咋市) | 代表取締役 永島 剛士 |
| 株式会社ハシモトホーム (青森県八戸市) | 代表取締役社長 橋本 貞夫 |
| 株式会社ヒカリ (東京都板橋区) | 代表取締役社長 高橋 一芳 |
| 株式会社広島鑪製造所 (広島県呉市) | 代表取締役社長 中洲 紀子 |
| 富士電子工業株式会社 (大阪府八尾市) | 代表取締役社長 渡邊 弘子 |
| フジワラ産業株式会社 (大阪市西区) | 代表取締役 藤原 充弘 |
| 株式会社舞昆のこうはら (大阪市住之江区) | 代表取締役社長 鴻原 森蔵 |
| 株式会社栲元 (宮崎県延岡市) | 代表取締役社長 長曾我部 隆幸 |
| 株式会社モリモト医薬 (大阪市西淀川区) | 代表取締役 盛本 修司 |
| ユニベール株式会社 (石川県金沢市) | 代表取締役社長 山田 修平 |
| Was h i ON共立継器株式会社 (長野県諏訪郡下諏訪町) | 取締役会長 宮川 昭二 |